

早稲田大学 政治経済学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)
難易度	昨年より難化

〔大問別講評〕

(一) 古文。出典：『是楽物語』。

(本文字数：約 2400 字 = 昨年より約 900 字増加。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問一・A	やや難	〔文脈把握〕イが紛らわしいが、前後で宰相職だけでなく財産の話もされているので、宰相職に限定しているイよりも八の方が適切。
問一・C	やや易	〔文脈把握〕傍線部の「え知らず」「長短なし」に着目する。
問一・D	やや易	〔文脈把握〕傍線部の「徳」の意味は、直後の一文から規定できる。
問二	やや易	〔空欄補充〕子を説明する語としてふさわしいものを選ぶ。ホは「不肖の息子」といった使われ方をする。
問三	標準	〔文法問題〕イは「用ゆる」、ハは「なかれ」、ニは「送れる」の「る」。
問四	易	〔知識問題〕「寡人」は、王侯が自分を指すときに使う謙称。
問五	やや易	〔空欄補充〕直前の「その故に」の前から、空欄には「宝」の言い換えが入ると分かる。
問六	標準	〔空欄補充〕前後の文脈をおさえて消去法で解く。
問七	やや難	〔内容合致〕八が紛らわしいが、「本心からの行動ではなく」「体面」の部分がおかしい。イは「斉の国」ではなく「陶」という地。
問八	難	〔文学史〕各作品の成立時期をかなり細かく覚えていないと解けない。

(一) 漢文。出典：『春秋左氏伝』。

(本文字数：約 90 字 = 昨年より約 20 字増加。設問数：4 = 昨年と同じ。)

問九	標準	〔文脈把握〕傍線部の「心腹之疾」に着目する。
問十	やや易	〔再読文字〕「猶」は「なほ……ごとし」と読む再読文字。空欄2は文末にあるので終止形の「ごとし」が正解。
問十一	易	〔返り点〕書き下し文は「之を用ふる所無し」。
問十二	標準	〔内容合致〕全体の文脈から考える。

(二) 随筆文。出典：寺田寅彦『蓄音機』。

(本文字数：約 2300 字 = 昨年より約 100 字増加。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問十三	標準	【理由説明】文章全体の趣旨から判断する。イは「改良の歴史」に関する記述が、第三段落に反する。他はたやすく消去できるだろう。
問十四	易	【空欄補充】副詞の語彙力が試されている。各空欄の前後の文脈から判断する。
問十五	易	【漢字書き取り】書けなければならないレベルの漢字である。
問十六	標準	【理由説明】傍線部以後の内容から判断できる。
問十七	標準	【空欄補充】空欄以後の内容から、どのような「笑い」であったか考える。
問十八	易	【漢字】文脈から意味を判断する。「人知を越えたことを神が教え示す」意。
問十九	標準	【語句の意味】「しゃちほこばる」という表現を知っているか。
問二十	やや易	【趣旨説明】直前の段落に、筆者の思いが述べられている。

(三) 評論文。「現代社会における「喜び」の消滅」について。出典：藤田省三の文章による。

(本文字数：約 3200 字 = 昨年より約 400 字増加。設問数：6 = 昨年より1問減少。)

問二十一	易	【漢字の読み】「未だかつてなかった」の意。最近耳にした人も多いだろう。
問二十二	やや易	【空欄補充】各空欄直後の「交渉」から明らかだろう。
問二十三	易	【空欄補充】空欄の直前の行の言い換えである。
問二十四	易	【空欄補充】Iは譲歩構文。他も空欄の前後の関係から明らかだろう。
問二十五	やや易	【趣旨合致】ロは「趣旨」とは方向性が逆である。
問二十六	やや難	【対比説明・記述】「経験」の定義は空欄Bの5行後にある。Yは「経験」であるが、Xは「経験」ではないことを、本文の表現を利用して具体的に書くことが求められている。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と比べて、すべての大問の本文字数が増加した。とくに大問一の古文は約 900 字の増加である。さらに、大問三で難度の高い記述問題が出題された。時間に追われた受験生が多かったのではないだろうか。

大問一について。古文は『是楽物語』。設問は、問八の文学史以外はそれほど難しくはないが、問三に時間をとられてしまうと、全体的に苦戦を強いられることになると思われる。

漢文は、『春秋左氏伝』が出題された。設問は、基本・標準レベルのものばかりなので、全問正解を狙いたい。

大問二は、「蓄音機」についての随筆文。大正時代に書かれたとはいえ、現代とほぼ同じ文体で書かれているので読みやすかったであろう。設問は、漢文同様、基本・標準レベルのものばかりなので、多くの受験生が高得点をとったと思われる。

大問三は、「現代社会における「喜び」の消滅」についての評論文。本文自体はそれほど難しくないので、スムーズに読めた受験生が多かったであろう。ただ、問二十六の記述問題が意外に難しく、四十字以内にまとめあげるのに時間がかかるとと思われる。大問一で時間をとられてしまった受験生は苦戦したであろう。本学部を受験する場合は、記述問題の対策もある程度はしておく必要があるだろう。